

THE LEGEND RISING SONS

「日本一のハーレーチーム」という看板を背負いし漢たち、魂の爆走劇!!

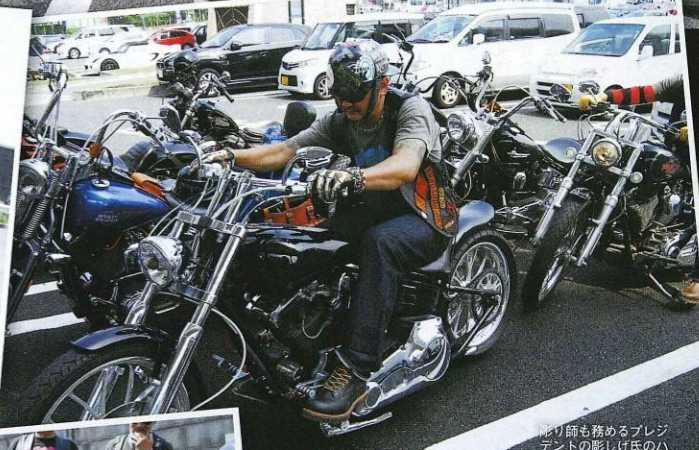
YOKOHAMA JAPAN

RISING SONS
M/C
YOKOHAMA

文◎上野友行
撮影◎真魚



突然ハーレーの調子が悪くなり、心配そうに様子を窺う面々だが...



お礼師も務めるブレジデントの影しげ氏のハーレー

遭遇撮

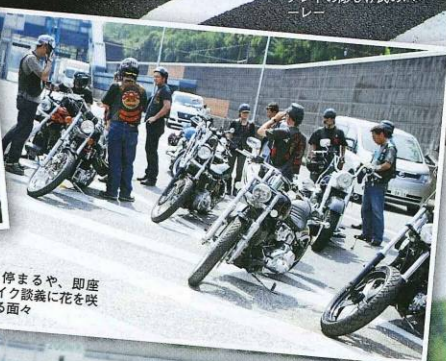
「RISING SONS」を視界に捉えた他車は、思わずスピードを緩めていた。このオーラがある限り、彼らは「日本一のハーレーチーム」の称号を冠し続ける。もともと横須賀の在日米軍が日本のハーレー愛好家たちと共に結成した「そびの息子たち」は今



伝説のプレジデント、故川田氏の娘・キャロルさんも駆けつけた



即座に修理してしま、何事もなかっただかのよう、修理は続いた



PAに停まるや、即座にバイク談義に花を咲かせる面々



前からだけではなく、後ろ姿も圧巻だった「RISING SONS」

有名ハーレーマガジンですら、創刊の経緯を「RISING SONS」のキャンプがきっかけだったと編集長が明言している程である。

もともと横須賀の在日米軍が日本のハーレー愛好家たちと共に結成した「そびえ立つ息子」。現在では横須賀、横浜、厚木、京都、岩国に仲間たちは点在し、毎年2回開催されているキャンプには約3000台のカスタムハーレーが集まるのだという。メンバーのおよそ3分の1はアメリカ人であり、在日米軍やそれを引退した者がほとんどだそう。

「支部ごとにそれぞれ違いますが、横浜は少なくとも月一のペースで集まってツーリングを行っています。子連れで来る方もいれば若い子もいますし、今では女性も珍しくありませんね」

こう語るのは「RISING SONS」のプレジデントを務める影しげ氏。背中に縫われた「PRESIDENT」のワッペンにはその歴史と伝統を感じさせるが、他の役職も本場アメリカの呼び名に倣っている。「VICE PRESIDENT」が副会長、「ROAD CAPTAIN」が特攻隊長なら「DEFENDER」は親衛隊長。また、「PUBLIC RELATIONS」(広報)が存在するのも実にアメリカ的。経理や会計などを担当する要職「TREASURER」はさながら事務局長というところ。まさに彼らの中に「ハーレーの故郷」の血脈が流れ続けている証ではなからうか。

この日、昼過ぎから大黒埠頭に集まった彼らが向かった先は千葉県某所「ライジングサンズ・チャオプラザ」のプレジデントを務めた、故・川田聖二氏の墓参りが目的だったわけだが、突然思い立って足を向けた訳ではない。幼少期にそんな父親と別れたきりになつてきた娘・キャロルさんが影しげ氏の元を尋ねてきたのがきっかけである。

「聖二さんがいなければ現在のRISING SONSはなかったと言いつける程、偉大な人物でした。その娘さんがこんなに大きくなっているなんて驚きました。逆にチームにそれ程の歴史があるということですね。今後親子二代でハンドルを握るなんてメンバーが増えてくると嬉しいですね」

今回のツーリングを終え、改めて自身の大役に身を引き締めた影しげ氏。

彼らの走る姿は、見る者全てと一緒に走ってみたいと思わせる程に魅力的でワイルドな光景であった。

カスタムマイズされたハーレーに跨がり、革ジャンをなびかせながら仲間たちと旅をする。例え映画「Back to Back」を見たことがなくとも、男であれば誰でも一度は憧れる光景であろう。

その為、今では全国に無数のハーレーチームが存在するが、中でもこの「RISING SONS」(ライジングサンズ)の知名度は特別だ。およそハーレー乗りの中でその名を知らないという者は存在せず、そのチームロゴに羨望の眼差しを向ける者も多い。創刊20周年を誇る某



全国各地に支部を持つ伝説のハーレーチーム

火の玉ハーレーで参加している天界氏による、「RISING SONS」情報も詰め込まれた「天界通信」も必見!⇒<http://ameblo.jp/tenkai2/>